

11.29 災害用伝言ダイヤル

大地震や風水害など、大きな災害が起きたときに、家族の安否情報などを伝える「災害用伝言ダイヤル171」の利用PRの催しがあり、市役所玄関ホールでは、体験コーナーが設けられました。

利用者は、係員の説明を受けながら、機械を操作し「無事に避難しています」など伝言の録音を行ったり、吹き込んだ伝言を自分で確認したりしました。

この日、市役所に訪れた市民が、次々と伝言ダイヤルを体験し、災害時の備えに関心の高さを感じました。



12.11 人との関わりを大切に

文化ホールで「人権ふれあいフェスティバル」が開催されました。講演会では、目が不自由な落語家の桂福点さんが「鬼太郎とぼく 見えないものが見えてきた」と題し、少年の頃、いじめや目が見えなくなる不安で自殺も考えた中、人との出会いや関わりにより克服された経験を落語や歌を交えながら講演しました。

障がいを理解するのではなく、個人を理解するという言葉が印象的で、すべての人に共通する大切な意識だとあらためて考えさせられました。

さかいみなとの



市の文化財 ③

今年度新たに指定された文化財を紹介します。

石造常夜灯 (4点)

江戸時代、夜道の安全を守るため、街道沿いに石灯籠が置かれました。市内にも数多く設置されましたが、現在では、米子へ向かう旧道(境往来)沿いに4基が残されています。これらの常夜灯は、当時の交通事情や信仰を伝える貴重な財産として、一括して文化財に指定されました。

①花町の常夜灯 (1)



台場公園の西、旧道沿いに置かれたもので、現在では下部(卒石)のみ残されています。建立は1863年で、台場の建設と同時期であることから、台場との関連が考えられています。

②花町の常夜灯 (2)

もと花町の旧道沿いにあったもので、現在は鼻守神社(台場

文化

公園南側



境内に置かれています。

建立は18

24年で、表面には「金毘羅大権現」「天照皇大神宮」など多くの神名が刻まれています。

③竹内町の常夜灯



竹内町、旧道沿いにある金毘羅宮境内に置

かれています。建立は1824年で、当時、神社の信者達が交代で灯明を点したと伝えられています。

④高松町の常夜灯



高松町の旧道沿い、阿弥陀堂近くに置かれています。建立は1826年で、高さ2メートルを越す大型のもので、他と同様、表面には各地の神名が刻まれています。

●問い合わせ先

生涯学習課文化体育係

(☎47・1093)